



# バン格拉デシユに恋して

私たちにあまり馴染みのない南アジアの国、  
バン格拉デシユを紹介します。

vol.5



## 【途上国でのモノ作り】

私はずっと温めていた夢「バングラデシユでのモノ作り」が漸く動き始めました。近年バングラデシユには、その豊富で安価な労働力を求めて世界中の縫製工場が集まっています。しかし今でもバングラデシユは最貧国から脱出することが出来ません。ダッカには物乞いで生計を立てている女性や子供たちが沢山います。何故なのでしょう？ もちろん理由は様々で一言で表現する事はできません。しかし例えばバングラデシユの縫製工場で働く女性が手にする一ヶ月の給料は日本と比較すると30〜50分の1程度にすぎません。2013年には過酷な労働を強いられた1200名以上の女性が縫製工場ビルの崩壊で亡くなっています。

今回、私はバングラデシユの伝統を生かした素朴な手織り

の布を作りたいと思いました。それは何百回もの試行錯誤の染色から始まり、その後職人さんの手によって編み上げられる気の遠くなるような作業でした。そして出来上がった手織りの布は柔らかくて綺麗でバングラデシユの農村の風景のように優しいものでした。私はこの布で作ったエプロンやバッグを日本で販売したいと思っています。メイドインバングラデシユの製品を手にとってもらう事でバングラデシユに興味を持ってくれる日本人が増えたらいいなあと 생각합니다。私の夢が多くのバングラデシユ人の協力で現実になって、そして今度は多くのバングラデシユ人の夢を叶えることが出来ますように…(っつっ)



工場働く本人



職人による手織りの様子



工場内の様子

鶴田 素子さん

八代市のローズマリー紅茶店オーナー。50歳で大学院に再入学し、開発経済学を専攻。途上国の貧困削減のためフェアトレードを推進する。

ご感想お待ちしております！

[info@uki-pre.net](mailto:info@uki-pre.net)